

初栄冠を完全Vで

「今年目標でした」

3日間ともアンダーパー

通算6アンダー、210

沖学園高1年・藤本愛菜（ミッションバレー）



勝負を決めたのは、やはりパッティングだった。昔からゴルフの世界で言い古された名言である「パット・イズ・マネー」。アマチュアだからマネーではないが、藤本が今年目標としていた九州女子アマのタイトルをその両手でつかんだ。

「全国で勝ったのと同じくらい嬉しい。今年目標だったし、一番嬉しい」と笑顔をはじめ

けさせた。今大会の会場となった玄海GCを「めっちゃ苦手。狭いし、木が多い。福岡県内でも一番苦手」としているコースを征服したのだ。それも3日間、アンダーで回っての完全優勝である。藤本本人も勝因を「パット」と即座に答えた。1～2m前後の「入れごろ外しごろ」のパーパットをとにかく沈めた。優勝争いは最終組で回った荒木優奈とのマッチレースとなったのだが、その荒木もあきれのしかなかった。

「あれで決まったかな」と藤本が振り返ったのが17番ショート(175ヤード)のパーパット。そこまで藤本が2打リードしていた。ともに第1打を左奥に外し、アプローチはともに寄らない。藤本は下りの2・5m、荒木は左横から1・5mが残った。最初に藤本がねじ込み、荒木は決められない。残り1ホール。3打差がついた。「今日は1番でバーディーを取って、パットが入る予感がしたんです」。その通りになった。優勝を手にしたパターは「(ゴルフショップの)パートナーで売れ残りの3本のうちの1本。9000円です。安かったです。メーカーはミズノです」。今や藤本のエースパターに昇格した。



昨夏の九州ジュニア女子12～14歳の部で優勝し、今年3月、全国中学校・高等学校ゴルフ選手権春季大会の中学女子個人の部を制した。ドライバーの平均飛距離250ヤードを誇る将来性豊かな高1に未来は限りなく広がる。最初の近い未来は6月の日本女子アマチュア選手権。「トップ10に入りたい」とちょっと控えめなコメントを残した。その次の未来は今大会で優勝争いをした荒木のようなナショナルチームのメンバーに。「私もなりたい。荒木さんはロングパットがうまい」と1つ年上のライバルの技に目を向ける。そして、最終的な未来は「ショット力で目標とする原英莉花」が活躍するプロの世界だ。福岡県小竹町出身で、小竹南小5年からゴルフを始めた15歳に注目である。

荒木優奈は2年連続で2位

○…今年もまた優勝には手が届かなかった。ナショナルチームのメンバーでもある荒木優奈(グリーンランドリゾート)は昨年、首位と2打差の2位。そして、今年も同じ順位となった。「相手(藤本)にずっとリードされて、力んで自分のスイングができなかった。パットも『入れなきゃ、入れなきゃ』と思って。負けたくないという気持ちが強すぎて」と涙で悔しいラウンドを振り返った。九州女子アマでは2年続けて苦い思いを味わったが、引きずるわけにはいかない。「ジャパンでリベンジしたい。ショットを調整して万全な状態で臨みたい」と気持ちを切り替えて日本女子アマの舞台に立つ。



7番ショートホール。前方に湯川山



広い練習場。バンカー、アプローチと練習環境は抜群